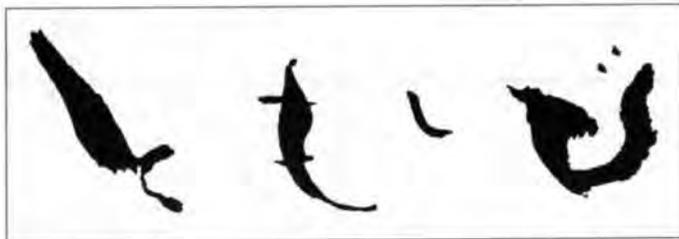


大学婦人協会東京支部

2006.7
第40号

- ・東京支部総会報告
- ・記念講演「ジェンダー・叩きの背後には」藤原房子氏
- ・「ショパンと向き合って」国内奨学生 大嶋かず路氏

この度思いがけず支部長を引き受けることになりました。新しい委員七人を迎え二十一人という少人数での船出です。この少人数で東京支部を運営していくためには、楽しく活動できることが第一と考えております。支部会員の皆様にもJAUWでこんな楽しい活動に参加できたと感じていただけますような企画を立てていきたいと思っております。そのために支部会員の皆様のご意見、ご要望をいただきたいと存じます。そのことが、会員減少を食い止めるための一役を担うものと信じております。

今年、JAUW設立六十周年と

新支部長挨拶

「楽しく参加できる
支部を目指して」

東京支部長 森川 淳子



いう年であり、本部でもいくつかの行事が計画されており、来年に予定されている全国セミナーに向けて今年行われるシンポジウムに、東京支部も協力してまいります。他にも本部と共催で自然科学講演会、国内奨学金贈呈式、国際奨学生報告会等が行われます。このような会に参加することで、JAUWの活動をより詳しく知っていただけたらと思います。

二〇〇三年の全国セミナーで発表致しました「子育て支援情報調査」の追跡調査を昨年致しました。今年、その報告書を作成致します。

今号の「ともしび」に東京支部の係とサークルの活動内容が詳しく紹介されており、これらの活動を通して、東京支部と本部との連携をスムーズに行っていきたいと思っております。折々にはバザーも開催致しますので、お友達をお誘い合わせの上、ぜひ積極的に支部の活動にご参加くださいようお願い申し上げます。

入会五年目という心許ない支部長と不慣れた委員ですが、皆様のご理解とご助力をいただきながら努めてまいりますので、宜しくお願い申し上げます。

東京支部総会報告

書記 桑折 美子

2006年度東京支部総会は4月15日(土)、津田ホール内会議室で開催された。

支部会員数450名中、総出席者数86名、有効委任状提出者数197名で総会は成立した。

佐々木支部長の挨拶に続き議事に入り、2005年度事業報告、決算報告がされた。次いで2006年度事業計画案、予算案が審議され承認された。

新役員の承認後、森川新支部長より新体制への抱負が語られ、新委員の紹介で議事は終了した。

最後に田中会長から、本部への協力に対し感謝のお言葉をいただいた。

支部と本部との連携の大切さを再確認するとともに、最重要課題である会員増加に向けてのご理解をいただき、協力を求め、総会は終了した。

記念講演は、評論家藤原房子氏により、「ジェンダー・叩きの背後には「子育て支援策の視点から」という演題で行われたが、ジェンダーという言葉の定義の難しさを改めて痛感させられた。

2005年度(社)大学婦人協会東京支部決算報告書

2006年度予算

2005.4.1~2006.3.31

2006.4.1~2007.3.31

収入の部

(単位 円)

科目	予算額	決算額	差異	備考	予算額	備考
I 会費収入	1,254,000	1,198,000	-56,000	398口	1,188,000	396口
II 事業準備金利息収入	50	42	-8		50	
III 運用金利息収入	10	5	-5		10	
IV 寄付収入	300,000	287,610	-12,390	パザールサークル 講演会一般参加費 他	300,000	パザールサークル 講演会一般参加費 他
V 雑収入	30,800	30,800	0	入会還付金 賛助会員還付金	28,600	入会還付金 賛助会員還付金
VI 調査研究費	0	0	0		40,000	中東女性交流発表(本部より)
A 当期収入合計	1,584,860	1,516,457	-68,403		1,556,660	
B 前期繰越金	567,117	567,117	0		316,703	
C 収入合計(A+B)	2,151,977	2,083,574	-68,403		1,873,363	

支出の部

科目	予算額	決算額	差異	備考	予算額	備考
I 管理費	1,070,000	1,052,157	-17,843		1,070,000	
(1) 備品費	10,000	0	-10,000		10,000	
(2) 消耗品費	110,000	81,247	-28,753	コピー代 用紙 他	110,000	コピー代 用紙 他
(3) 印刷製本費	50,000	69,650	19,650	支部のお知らせ 封筒 他	50,000	支部のお知らせ 封筒 他
(4) 通信費	300,000	291,760	-8,240	支部のお知らせ ともしび 本部会報 他	300,000	支部のお知らせ ともしび 本部会報 他
(5) 交通費	30,000	39,500	9,500	発送交通費	30,000	発送手当
(6) 本部への分担金	570,000	570,000	0	本部への分担金	570,000	本部への分担金
II 運営費	120,000	116,944	-3,056		120,000	
(1) 総会費	80,000	77,203	-2,797	会場費 他	80,000	会場費 他
(2) 委員会費	40,000	39,741	-259		40,000	
III 事業費	620,000	597,770	-22,230		640,000	
(1) 一般事業費	500,000	497,770	-2,230	ともしび(2回) 講演会 寄付 他	500,000	ともしび(2回) 講演会 寄付 他
(2) 国内奨学金	100,000	100,000	0	国内奨学金寄付	100,000	国内奨学金寄付
(3) 調査研究費	20,000	0	-20,000	次年度繰越	40,000	冊子代 他
IV 雑費	10,000	0	-10,000		10,000	
V 予備費	10,000	0	-10,000		10,000	
D 当期支出合計	1,830,000	1,766,871	-63,129		1,850,000	
E 当期収支差額(A-D)	-245,140	-250,414	-5,274		-293,340	
F 次期繰越金(C-D)	321,977	316,703	-5,274		23,363	

事業準備金状況：普通預金 ¥4,360,000 中央三井信託銀行新宿西口支店
 運用金状況：繰越金 普通預金 ¥298,809 中央三井信託銀行新宿西口支店
 現金 ¥17,894

会計 田辺範子 森川淳子

厳正に監査致しました結果、正確に記載されており、間違いないことを証明致します。
 2006年4月3日 会計監査 三浦由紀子 坂上栄美子(印省略)

大学婦人協会東京支部
 二〇〇六年度役員・委員名簿

支部長 森川 淳子(茶)
 副支部長 細田 照子(実)

書記 早瀬 暢子(津)
 桑折 美子(奈女)

会計 今村 麻子(東女)
 田辺 範子(茶)

委員 岩田 和子(東女)
 岩田 良子(日女)
 加来美智子(慶)
 木川 眞美(実)
 佐藤 文子(東女)
 塩沢 正子(高知女)
 鈴木 佳子(奈女)
 端本 和子(日本)
 細貝久美子(茶)
 堀内 洋子(津)
 松岡 幸子(東女)
 三浦 洋子(実・慶)
 村木 晴子(津)
 結城 愛子(聖)
 三浦由紀子(茶)

会計監査

(五十音順) 佐々木澄子(東女)
 印新役員、委員

〈東京支部総会記念講演〉

(06・4・15)

「ジェンダー・叩きの背後には一子育て支援策の視点から」

講師 藤原 房子氏



鮮やかな緑のジャケットをお召しになって登壇された藤原氏。その緑のジャケットにはわけがあった。

まず、宇宙飛行士の向井千秋さんの日経新聞記事「緑のランドセル」をとりだされ、向井さんが「人と違った色の緑のランドセル（お店の展示品）をご両親から与えられ、はじめはからかわれて泣いて帰ってきたが、やがて周囲が変わってきたという体験を経て、人と違ったことをすることに抵抗感がなくなった。」という話を紹介された。そして、そこにジェンダー問題を考える手がかりが

ある、と指摘された。

しかし、言葉には多義性があり「ジェンダー」という語も、戦前の意味を持つ言葉として、高校の教科書から消されてしまった。

戦後新憲法発布時には女性は一枚岩であったが、皮肉なことに一九七五年の国際婦人年後の二〇〇〇年あたりから女性の中からも抵抗勢力がでてきた。それがバックラッシュである。

代わって、男女共同参画社会の実現ということが言われるようになった。しかし、依然として女性の労働時間は統計的にみても、無償労働を含めて男性よりも長く、役割分担も固定的である。

能力は経験の関数であるというのが氏の持論であり、子育ては男性に向いていないというのは、誤りである。やってみなければ判らないことは、世の中に如何に多いことか。子育てという有意義なことに男性を関与させないのは、逆に男性に対する人権侵害であると思ふ、と言われた。

「ワーク・ライフ・バランス」ということが言われているが、そのためには企業は労務管理をしっかりやり、長時間労働をやめ、労働時間の

適正化を図らなければならない。何が今、子育てを難しくしているかと言えば、商業主義との関係や犯罪の多発、そういう社会環境の中でのストレスがある。また、地域社会との結びつきがホットでなくなったことが挙げられる。子育て支援のために、保育所を増やす、あるいは児童手当を増やすというだけでは不十分である。

意識の改革が必要であり、回り道のようにはあるが、ゆとりのある安定した社会が望まれるのである。

長年婦人記者として社会の第一線で活躍され、ジェンダー問題にも関わってこられた氏の見識のあるお話は、共感する部分が多く、また示唆に富む内容の講演であったと思つた。

(山崎 邦子)

〈第8回守田科学研究奨励賞贈呈式〉

(06・5・13)

今回の受賞者は、東京工業大学大学院生命理工学研究科生物プロセス専攻講師の松田知子博士（生物有機化学）と京都大学原子炉実験所助手の喜田昭子博士（構造生物学）である。式に続いて行われた受賞講演で

は、両博士は先端のご研究についてほとんどが専門外の聴衆を対象に研究の意義を平易に述べられた。詳しくは、会報の222号（06・6・25）を参照していただきたい。

後半の祝賀会では、来賓の方々から祝辞をいただき、理事会はじめ、東京支部等多くの会員のご参加をえて、交歓はなごやかに一時間余続いた。なお、第1回から第8回までの資料を一冊のファイルにまとめて事務所で閲覧できるようにしております。

(井上 久仁子)



〈第49回通常総会報告〉

前副支部長 福士 仁三代

全国総会は4月8・9日と秋田で開催された。開花が早かった桜の花がすでに散ってしまった東京を離れ、秋田新幹線盛岡からは、雪の大平原を抜ける旅となった。

初日は評議委員会、支部長懇談会に続いて夜は懇親会が開かれた。秋田和洋女子高等学校の女生徒の皆さま、ういいういしい秋田おばこ姿による秋田民謡のひとつときと、格別に美味しいお酒と名物料理など秋田自慢を堪能した。また支部ごとに壇上が上がって紹介と挨拶があり、ユーモアあふれる一言に座は一層賑わった。

翌日の総会は、23支部、158名（東京支部からは約70名）が出席した。今井会長を議長に、例年どおり事業報告、各委員会、各支部の報告などが行われた。また、国内奨学金資金設立募金が目標額を上回る結果（1047万円）を得たこと、日本・ヨルダン・エジプト・パレスチナ女性交流は東京・岡山のシンポジウムなど成功裏に終えたことが報告された。今年度は役員・監事の大幅な交

替があり、田中正子新会長ほか、新役員・監事の承認と紹介がされた。

大きなテーマである名称変更については賛否両論活発な討議がされたが、可決には至らず、次年度に持ち越された。この件は各支部に持ち帰り真剣に考えていただきたい、との議長発言が添えられた。

懇談では、国庫補助事業の廃止に伴い全国セミナーを2年計画で実施し、今年度はその準備の年と位置付け、シンポジウムを計画していること。その他国内奨学金制度の現状と奨学生の追跡調査の報告など、盛り沢山の内容となった。

秋田支部は総勢20名と聞く。今冬の豪雪のなごりが見られる中、もう



すっかり春のような暖かな演出をして下さった皆さまに感謝を申し上げます。（次期総会は2007年4月10・11日、福岡開催予定）

〈秋田支部主催見学会〉

「秋田市内コースに参加して」

設備の酒蔵を見学したあと、さっそく新酒の試飲です。「こちらは、どんなお味？」とかなんとか、皆さん、けっこう二杯三杯。お陰で、心も足取りも、すっかりほぐれました。

そして、赤れんが郷土館から民俗芸能伝承館へ。多彩な展示に、郷土の文化に対する秋田の深いエネルギーを思い、竿燈実演の妙技には、伝統を守り伝える心意気を感じ入りました。

お昼は千秋公園内の由緒あるレストランで、地元の食材を使った豪華フレンチ。「今年もお会いできましたね」「Aさん、大学院に入ったそうよ」「孫が三人になりました」「お役、頑張ってください」「竿燈まつりにぜひ来たいですね」などなど、会員同士ならではのくつろいだひと時。

秋田支部のお心遣いに感謝しつつ、まだ雪の残る秋田を後にしました。

お酒大好きな私。宅配便で届いた濁仕立を片手に、気分だけは秋田おばこの駄句です。

みちのくの銘酒甘口花見船

（坂上 栄美子）

十日は、前日の総会の興奮覚めやらぬ面持ちで、とにかく見学会に出席。最初の見学が、なんと秋田銘酒の醸造元。酒造りの時は終わってしまいましたが、思わず深呼吸してしまいういいうい。手造りを生かすハイテク



〈秋田支部主催見学会〉

「角館・田沢湖コースに参加して」

快晴、バスは予定通り九時に出発。大館は忠犬ハチ公の故郷だとか、秋田の酒、秋田コマチ、県の鳥は「山鳥」、県の花は「ふきのとう」、秋田杉などガイドさんの話を聞くうちに赤レンガ造りの角館榊細工伝承館に到着。これは二百年以上の伝統を持つ武士の手内職であった、山桜の木肌を磨いて作る工芸品「榊細工」を伝統産業の技術伝承のために建てられたもので、戦前の宗悦の情熱的指導は今も「ものづくり」の支えになつていふという。磨きに磨かれた山桜の皮が印籠や茶筒など見事な細工物に仕上がる技に感心する。我が家の茶筒を見直した次第です。次に角館歴史村・青柳家に入りました。武家屋敷石黒家の南隣にあり、もともと芦名氏譜代の侍で断絶後佐竹北家の組下となった家柄。高い格式を誇り、広い庭を巡った。遙かな時を超え、武家の暮らしが偲ばれる。数々の武器には武士道の精神が宿り、また西洋の陰影法を取り入れて、後の洋画界に影響を与えた秋田蘭画は平賀源内に指事した小田野直武と時の

藩主・佐竹義敦により完成した。武家屋敷通りに「生もろこし」屋さんがあり、お土産を買い客で賑わっていた。角館武家屋敷は「いがった」とガイドさんと話しながら田沢湖芸術村に向かった。桜の花はまだ蕾で、あたりは雪景色であった。東北の桜の名所は、一番が弘前公園、二番は角館ということでした。芸術村温泉ゆほほで会席膳の昼食をとった後、

御座の石神社



田沢湖を半周、伝説の辰子姫像のところで遙か前方に駒ヶ岳を望み心洗われる風景でした。立派な枝ぶりの松のある、御座石神社を拝み、残

雪を踏みしめながら湖畔散策を楽しみ、二時五十分頃帰途についた。秋田支部の方々の細やかなお心遣いが身にしみる大変よい旅でもありました。感謝申しあげます。

(岡部 道子)

〈国内奨学金受賞者のエッセイ〉

「シヨパンと向き合って」

東京芸術大学大学院

大嶋 かず路

私は現在大学院博士課程においてシヨパンを中心とした研究を行っており、定期的に研究会を開催している。その際、度々話題にのぼるのが、なぜシヨパンは日本で非常に人気があるのかということである。

最近ある新聞社の行った作曲家に関する調査の結果でも、日本で最も人気のある作曲家として第二位にシヨパンの名が挙がっていた。なぜそれほど人気があるのか？ 様々な理由が考えられるが、ロマンチックな逸話で彩られた人物像がその要因の一つなのではないだろうか。

シヨパンというサウンドとの恋愛や、サロンでの活躍が有名である。しかし、残念ながらポーランドでの

青少年期については、それほど知られていない。一八一〇年にワルシャワで生まれたシヨパンは二〇歳で祖国を離れ、三九歳でパリにて没した。生涯にわたりマズルカ作曲し続けたシヨパンにとって、故郷での二〇年間は音楽家としての方向性を確立するに至った最も重要な時期である。またそれは、他国支配下のポーランドにおいて国民に愛国心が強く求められた時代でもあった。無論、こうした社会背景はシヨパンにとって決して無関係ではなかった。

作曲家シヨパンを生み出した背景を様々な角度から考察し、作品について造詣を深めつつ、多くの愛好家の方々とシヨパンについて語り合える場を持ちたいと願っている。



〈東京支部講演会〉

(06・5・17)

華麗なる十八世紀ロココ美術
—ボンバドゥール

侯爵夫人をめぐる—

講師 小林 亜起子氏

5月17日、ロココ調美術の講演会
を聞きに行
った。

講師は
2005年
度国内奨学
生の一人で
ある小林亜
起子氏であ
った。小林
氏は東京女
子大卒業後
パリ第十大
学美術史科



に留学され学士号並びに修士号を取
得され、現在は東京芸術大学大学院
博士課程で十八世紀のロココ調美術
史を研究なさっている。

今回は特に華やかなボンバドゥー
ル夫人の講演ということで楽しみに
出かけた。宝塚の「ベルサイユのば
ら」を思い出して、ワクワクした。

さて、講演はフランス・ブルボン
家の歴史や当時の美術の解説から始
まった。絵の格の高さとして、第一
に宗教画や神話が描かれているも
の、第二に肖像画。そして、風俗画
や風景画・静物画と続く事を教えて
いただいた。

続いて実際の絵を見せていただき
ながら、解説を聞く。

私が心に残ったのはラトゥールの
「ボンバドゥール侯爵夫人」の肖像
画。同時にプーシェの「ボンバドゥー
ル夫人像」も見せていただいたが、
やはりラトゥールが印象深かった。
ラトゥールの肖像画では背景にモン
テスキューの「法の精神」や「百科
全書」が描かれている。これらは当
時進歩的思想であった啓蒙思想を彼
女が容認し保護したことを表してい
る。それはまた彼女がいかに権力を
握っていたかも表していた。実際、
彼女は政治の中核にいたようだ。

この後フランスはフランス革命を
迎えるのだが、平民出身の美しい侯
爵夫人がルイ15世の愛を受けながら
この絵を描かせたことに深い感慨を
覚え、世の無常を感じざるを得なか
った。

小林氏のご講演は時代を多面的に
捉え、ロココを誠実にそして生き生

きと描いた、素晴らしいものであつ
た。(端本 和子)

〈東京支部調査研究報告〉

子育て支援情報調査研究

報告書が完成しました

二〇〇三年の調査を受けて、二〇
〇五年度に行った追跡調査の報告書
を皆様にお届けできることになりま
した。

各自自治体のホームページを通して
子育て支援の現状が浮かびあがって
きます。ぜひ一読ください。

今年度からの新委員

「どうぞよろしく」

四月から新しくお仲間にいれてい
ただきました。何もわかりませんが
で、皆様のお力添えをいただきなが
ら、楽しく活動を致したいと思いま
す。よろしくお願ひ致します。

塩沢 正子

入会と同時に、委員を引き受ける
ことになり、異次元の世界に迷い込
んだような戸惑いを感じておりま
す。ご助言、ご助力のほどよろしく。

鈴川 佳子

五月の連休直前に友人を通じて大
学婦人協会の存在を知りました。私
はワープロもパソコンもできません
で、どれほどのお手伝いができるの
だろうかと思いつつ活動に賛同し入
会しました。ともあれ、JAUWに
迷い込んでしまったわけですから時
間が許すかぎりベストを尽くしたい
と思っております。

加来 美智子

会員の方々との交流が楽しみみで
す。講演やいろいろな企画に参加し
て、脳の活性化を図りたいと思っ
てます。よろしく。

細貝 久美子

子供の頃、大学婦人協会が資金集
めのパザールをやっていると聞いて、
大学婦人協会って何かしらと思った
記憶があります。このたび、何かの
御縁で皆様と一緒に活動させていた
だくこととなりました。微力ですが、
どうぞよろしくお願ひいたします。

松岡 幸子

何もわからず入会しました。私に
とって、また新しい世界が増えまし
た。できることから、少しずつでは
ありますが、させていただけますの

で、よろしくお願ひします。

木川 眞美

「万難は有つても」支部活動にご尽力されておられます方々に感動してました。微力ですが、バザー係として楽しくお手伝いさせていただきますと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

佐藤 文子

各係からのメッセージ

◆会員係

皆々様の名簿の管理が主な仕事です。大切なお知らせが確実に届きますように、ご住所の変更は速やかにご連絡ください。今年入会したばかりの新人二人での出発です。ご助力のほどよろしくお願ひいたします。

(細貝 久美子・鈴川 佳子)

◆講座・見学係

本年度は委員の入れ替わりで初顔合せでスタートしました。年間予定は五月の国内奨学生による講演会と六月の「鎌倉長谷寺のあじさいと写経」を終え、十一月と翌年二月(未定)の講演会を考えております。皆

様どうぞご意見をお寄せ下さいまして多数のご参加をお待ちしています。

(三浦 洋子)

◆バザー係

国内奨学金への寄付のための活動をしていきます。

物余りの昨今、販売の難しさを痛感していますが新鮮でアイディアのある品揃えを心掛けたいと思っております。お買上げのご協力に加えて品物のご提供、仕入れ先のご紹介等の情報も宜しくお願ひいたします。

(吉沢 紗知子)

◆「ともしび」係

東京支部の活動の報告、お知らせを載せて年2回発行しています。

さまざまな分野の講演会、興味深い場所への見学会、奨学生の若い視点からのエッセイなどを通して、支部会員の皆様のご活躍の場がさらに広がることを願いつつ、紙面の作成に励んでおります。

皆様の率直なご意見、ご指導をよろしくお願ひいたします。原稿も募集しておりますので、どうぞお気軽に「ともしび」係までご連絡ください。

(村木 晴子)

私たちのサークルに
入りませんか？

「源氏物語を読む会 (I)」

二時間の「源氏物語」ワールド

相馬 房子



今年九月で発足後丸十年となる「源氏物語」を読む会 (I) は、坂上栄美子先生のご指導のもと月に二度開かれています。現在メンバーは二十七名。開講当初からの在籍者に加え、途中参加者、クラス (II) からの編入者、種々の事情による長期欠席からの復活組と様々ですが、皆一様にあつという間の二時間を楽しんでいきます。国文科出身の方々は別として、「古典は高校の古文

の授業以来」というメンバーも少なくない中、この壮大な物語を現代語訳ではない原文で読破しようという挑戦は、期待が膨らむ反面全く予想のつかないものでした。

実際に始まってみると、細かい文法にとらわれずひたすら文章に触れていく読み方に加え、当時の政治や制度等の時代背景、漢籍等にも言及される幅広い講義が展開されていきました。知らず知らずの内に複雑な人物系図も大筋で頭に入り、誕生からその生涯をたどった光源氏をはじめ、登場人物に対して自分なりに肉付けされた人物像がで上がりました。とは、得がたい財産となりました。鋭い洞察力で描かれた人間心理は時代の違いを超えて人の心を動かすものだということが、「源氏物語」は様々な研究対象の宝庫であること等を、実感として感じ取れたことも大きな収穫でした。

これから「宇治十帖」へと進んでいきますが、どんな気持ちで最後の一行を読み終えるのか、今からその時を楽しみに待ちたいと思います。



事業報告・予定

- 4・8 JAUW第49回通常総会
- 4・9 於・秋田
- 4・15 東京支部総会
- 記念講演「ジェンダー・叩きの背後にはー子育てで支援策の視点からー」
- 講師 藤原房子氏
- 5・13 守田科学研究奨励賞贈呈式
- 講演会「華麗なる十八世紀ロココ美術ーボンパドゥール侯爵夫人をめぐるー」
- 講師 小林亜起子氏
- 6・22 見学会「鎌倉長谷寺のあじさいと写経」
- 子育てで支援調査研究報告書作成
- 7・1 東京支部会報「ともしび」第40号発行
- 10・14 シンポジウム(津田塾本館大教室)
- 11 講演会
- 12 第6回自然科学講演会(科学研究奨励委員会と共催)
- 1・6 新春のつとめ・国内奨学金贈呈式
- 2 講演会
- 3・1 東京支部会報「ともしび」第41号発行

以後の事業は追ってお知らせします。

サークル紹介

会員相互の親睦を図るため、東京支部には現在5つのサークルがあります。趣味に、お勉強に、どうぞ皆様ご参加ください。

★英語講座

- ・第一・第三金曜日 午前十時～十二時
- ・大久保地域センター三階
- ・講師・松本節也元法政大学教授
- 「さし絵入り英国史」を講読中。
- 講師による詳細な訳註、ヒアリング用のテープ、参考資料をもとに輪読しています。
- ・連絡先・中山正子

★楽しい俳句会

- ・第三水曜日 午後一時半～三時半
- ・JAUW事務所会議室
- ・講師・柴崎富子会員
- 柴崎先生の熱心なご指導のもと楽しく俳句を作っています。
- メンバーを若干名募集中です。
- ・連絡先・小池朋子

★源氏物語を読む会(Ⅰ)

- ・第三・第四水曜日 午前十時半～十二時半
- ・津田塾大学同窓会・会議室
- ・講師・坂上栄美子会員
- 「幻」「雲隠」を読み終え、現在「匂兵部卿」の巻を読んでいます。
- ・連絡先・平田宏子

★源氏物語を読む会(Ⅱ)

- ・第二・三・四火曜日 午前十時～十二時
- ・津田塾大学同窓会・会議室
- ・講師・坂上栄美子会員
- 「夕霧」の巻を読んでいます。
- ・連絡先・中山律子

★フラワーデザイン

- ・第三火曜日 午後一時半～三時半
- ・JAUW事務所会議室
- ・講師・河井尚子会員
- 初心者歓迎、お花と向き合う時間を楽しみましょう。
- 若干名、余裕があります。
- ・連絡先・山崎邦子

会員増加へのご協力をお願い

東京支部の会員が減少しております。ご家族やご友人への勧誘を是非お願いします。

東京支部主催の行事・講演会・見学会・サークルにお誘いください。

★会費納入のお願い

会費未納の方は、用紙の「払い込みのご案内」を参照の上、早めにお振り込み下さい。

★住所変更などのご連絡は事務所までお願い致します。

★使用済みの切手、プリペイドカードなど事務所までお送り下さい。

（編集後記）

皆様の暖かいご協力のお蔭で、ともしび40号を無事に発行することができました。森川新支部長のもとでスタートして早3ヶ月、不行き届きな点は多々あるかと思いますが、少しでも新しい風を感じていただけたら幸いです。



ともしび 四〇号 発行日 二〇〇六年七月一日 発行 社団法人大学婦人協会東京支部 編集ともしび係

〒100 新宿区左門町十一番六・一〇一

Tel 〇三・三三三・五八二八八二 印刷 タナカ印刷株
Fax 〇三・三三三・五八二八八九